３　道徳の時間（道徳科）と他の教育活動との関連

＜場の内容・ねらい＞　　＜生徒の意識＞　　＜指導・援助＞

社会科（６月）
「わたしたちの生活と文化」
・日本の多様な文化を理解し、グローバル化の中で伝統文化を継承し、新しい文化を創造していくことの大切さに気付くことができる。

【日常の活動】

〇朝・帰りの会
・地域の文化や活動、時期ごとに行なわれている出来事について関心をもち、よさを見つける。

〇委員会活動
・地域のために活動を続けている人を紹介する。学校の文化を継承しながら、学校の発展のために粘り強く取り組むことの素晴らしさとつなぎながら活動を高めることができる。

・日本には、多様な文化があり、グローバル社会が進むにつれて、それぞれがなくなりつつあることがわかった。特に、過疎化が進む小さな町の文化が厳しくなっている。
・それぞれの文化のよさは生かし、課題点を補っていけるような社会になるとよい。

・日本や地域の多様な文化を調べる時間を十分にとり、調べた内容を交流することを通して日本や地域の文化について理解を深める。
・地域のよさや課題を明確にしながら、地域の発展への願いをもち、自ら関わっていけるようにする。

帰りの会
・地域のボランティア活動や行事等に参加した時の思いを交流し合う。
・地域のよさや課題点を考え合う。
・地域に貢献している人々の思いを考え合う。

・地域のボランティア活動に参加してみて、すごく疲れたけれど、地域に貢献ができたと思うと嬉しくなった。また、私たちが学校で勉強している間に、地域では私たちのためにいろんな仕事をしてくれている人がいることがわかった。

・地域のボランティア活動への参加を価値付ける。また、参加をして思ったことを交流し、今後の活動の意欲化を図る。
・地域に貢献している人の思いを考えたり知ったりすることで、地域社会の一員としての実感と自覚をもつ。

道徳の時間（道徳科）（６月末～７月初）
「世のため人のため」（松尾 国松）
内容項目　Ｃ（１６）
「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」
・現在の豊かな暮らしができているのは、将来を見据え、周囲の理解を得ようと粘り強く努力を重ねた先人等の努力によるものであることに気付き、郷土や地域に主体的に関わり、自分ができることは何かを考え、郷土の将来のために自分から行動しようとする意欲を育む。

・私たちの生活は、先人の努力のおかげであることがわかった。
・郷土の発展を願って何かしたとしたら、それが次の世代につながっていくんだな。
・地域の人たちのことを知って、災害時等には、中学生の私たちが支えていけるようにしたい。日頃の挨拶からやっていこう。
・夏休みは地域の活動に積極的に行って、地域の人や環境を知りたい。
・朝から地域のために活動してくれている人っていっぱいいるんだな。

・郷土を愛する心とは、どんなあり方の心であるのかを、国松の生き方から考える。
・地域と自分との関わりについて見つめ直し、今後の地域の一員としてのどのような生き方をしたらよいかを考える。

学級活動（７月）
「夏休みの計画」
・「私たちの道徳」の「ふるさとの発展に貢献する」（Ｐ２０３）を家族と共に記入し、地域の発展を願って、自分にできることを考え、進んで取り組もうとする態度を育てる。

〇登下校時
・地域に住む人やいろいろな仕事をする人、自然や建物などに目を向け、日々の変化に気付いたり、自ら関わったりしながら、この地域の一人として自覚を深める。

・地域において、自分たちが生活しやすいように整備された環境や自分たちのためにボランティアで活動してくださっている人や、その価値を紹介する。
・地域に貢献している人から話を聞く機会を設けて、地域を大切にしていこうとする意欲を高める。